

⚠ 使用上の注意

使用前は必ず洗車を行う。

キズの原因になるので、必ず洗車を行いホコリ・泥汚れなどを除去してから使用してください。

ボディが熱い時の作業は×

色ムラ・シミが発生したり、拭き取りにくくなるため、炎天下や直射日光のあたるところ、走行直後など、ボディが熱い時には使用しないでください。

風の強い時の作業は×

キズの原因となるので、風の強い時や砂ボコリの多い所では使用しないでください。

ザラツキがある場合は、
ネンドクリーナーなどで除去

塗装面にザラツキがある場合は、市販のネンドクリーナーなどで除去してから使用してください。

- 用途以外には使用しないでください。
- 換気の良い所で作業を行ってください。
- 色ムラ・シミの原因となりますので、液剤を直接ボディにかけたり、液剤を付けたまま、長時間放置しないでください。
- 補修箇所への施工は、補修の2~4週間後に行ってください。
- 再塗装や劣化した塗膜には、本製品の効果が十分に得られない場合があります。また、色落ちや拭き取りにくくなる場合があるので、必ず目立たない所で試してから使用してください。
- 塗装面の状態によって本来の効果が得られない場合があるので、付属のベースクリーナー(下地処理剤)を必ず使用してください。また、塗装面にザラツキがある場合は、市販のネンドクリーナーなどで除去してから使用してください。
- 変色・シミになるおそれがあるので、衣服・革製品には付着しないように注意してください。
- ベースクリーナー(下地処理剤)・メンテナンスクリーナーは容器を強く握ると、液が飛び出すことがありますので注意してください。
- 使用後は必ず石鹸で手を洗ってください。

使用時のアドバイス

作業は40~50cm
四方毎に

クリーナーやコーティングの塗り伸ばしは、ボディ全体に塗り伸ばしを行うのではなく、40~50cm四方毎に作業を行うと塗り忘れや、塗りムラを防ぎ、キレイに仕上がります。

容器は良く振る

コーティングやクリーナー液剤は有効成分が沈殿していると、効果が発揮できない場合がありますので、使用前に必ず良く容器を振ってから使用してください。

気温が高い時は
部分ごとに作業

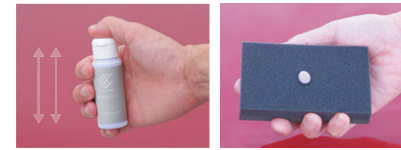
夏場など、気温が高い場合は、乾燥時間が早くなるため、ボンネットやドアなど、パネル毎に塗布→拭き取り作業を行ってください。

M-Ver.1 323081

STEP1 ベースクリーナー(下地処理剤)による下地処理作業を行う。

⚠ 作業前は必ず洗車を行い、ホコリ・泥汚れを除去し、水分を拭き取ってから作業を行ってください。

① 液剤の取り出し



容器を良く振り、水を充分含ませたクリーナー用スポンジの柔らかい面に液剤を適量取り出します。

② 塗布



縦横直線的に塗り広げます。
※作業は40~50cm毎に行うのが目安。

汚れが多い場合は繰り返し作業する。

液剤がかすれてきたら付け足す。

③ 拭き取り



作業後、たっぷりと水を含ませた拭取用クロスで拭き上げ後、よく絞った拭取用クロスで拭き上げます。

必要に応じて乾いたクロスで拭き上げる。

作業後はボディを完全に乾かす。

STEP2 コーティング剤を塗布する。

⚠ 水分厳禁! ボディが完全に乾いた状態で作業を行ってください。

① 液剤の取り出し



容器を良く振り、コーティング用スポンジの白い面全体に液剤を適量取り出します。
※液剤は容器の口にスポンジを当てて、上下に振って取り出す。

容器内の球がカラカラ鳴るまでよく振る。

液剤の取り出しに注意。

② 塗布



縦横直線的に塗り広げます。
※作業は40~50cm毎に行うのが目安。

液剤がかすれないように、付け足しながら作業する。

③ 拭き取り



塗布後約5分~15分乾燥後(乾燥の目安は夏場5分、冬場15分)、乾いた拭取用クロスで拭き上げてください。
※作業後約2時間は水に濡れないように乾燥させる。

拭き取り残しやムラがないか確認を行う。

完全硬化まで約1週間かかるので、期間中の洗車などは避ける。

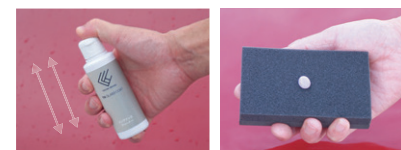
メンテナンスクリーナーによるメンテナンス作業を行う。

※撥水力が低下した場合や、洗車で落ちない汚れがボディに付着した場合に使用してください。

⚠ 作業前は必ず洗車を行い、ホコリ・泥汚れを除去してください。

※メンテナンス作業は、水分が若干残っていた方が作業しやすくなります。

① 液剤の取り出し



容器を良く振り、水を充分含ませたクリーナー用スポンジの柔らかい面に液剤を適量取り出します。

② 塗布



縦横直線的に塗り広げます。
※作業は40~50cm毎に行うのが目安。

液剤がかすれてきたら付け足す。

③ 拭き取り



白く乾燥したら、たっぷりと水を含ませた拭取用クロスで拭き上げ後、よく絞った拭取用クロスで拭き上げます。

白く乾燥する前は拭き取らない。